

# 持続可能なお寺を目指して

## 古民家をリフォームした魅力的な本堂

浄土真宗本願寺派総合研究所  
寺院活動支援部〈過疎地域対策担当〉

持続可能な施設ということで連載をしてきた本シリーズ。これまで、低コストで建築可能な寺院のあり方を、建設会社からご提案いただいた和風の葬儀会館についてご紹介した。さて、今回ご紹介するのはリフォームでできた本堂である。これまでとの大きな違いは、新築の物件ではない点である。

### リフォーム本堂

このたび訪問したのは、埼玉県の東武東上線東松山駅から車で十五分ほどの距離にある浄泉寺（住職：福井学誠さん）で、都市開教寺院として、二〇一五年に完成した。都市開教寺院の多くは、開教専従員として任用を受け、借家からスタートし、基盤を整えた上で新築の寺院を建築することが多い。しかし、浄泉寺は、もともとあった既存の建物をリフォームし、お寺として活用している点に特徴がある。

多くのお寺は、一般の家屋をリフォーム

ムして宗教施設として使用するということとはないだろうから、開教寺院だからこそその新しい試みとも言える。さて、何をリフォームしたのか。それが、今回のトピックである。

### 古民家の由来

浄泉寺がリフォームしたのは、古民家である。明治の初めに埼玉県飯能市の養蚕農家が建てた古民家。すでに一五〇年が経過している。維持できなくなり取り壊しが決まっていたところを古民家の保護をされている方が、東松山市近郊に移築し保存されてきた。



東京教区埼玉組浄泉寺（埼玉県比企郡吉見町）

ただ、保存されているといっても、誰かが利用していたわけではなく、ご住職がこの物件と出あったときは、水道も電気も通っていない状態だった。当時の写真を拝見したが、立派ではあるものの、

かなり古ぼけており、再利用するにはやや躊躇ちゆうちゆうされるような状態だった。

### 古民家再生の思い

古民家を再生させようと思った理由を聞くと、「古いものの良さを大切にしたい」という一言が返ってきた。このお寺の御本尊や使用されている仏具は、幕末期のもの。つまり、古民家と同じ時代のものであり、同じように長い時間を経過してきたからこそその調和の美しさを感じられる。まるで、本堂となることを待っていたかのような、静謐せいひつさ、ぬくもり、重厚さが本堂に相応ふさわしい雰囲気ふんいきを醸かし出している。長い時間の流れの中でしか生み出せない安心感がある。ここに入った方は、必ず「時間」を感じるはずだ。

### 従来の本堂建築にはない魅力

もともと本堂ではなかったもので、逆に、一般的な建築様式で建てられた本堂



にはない魅力がある。本堂の左側には、縁側があり、大きなガラス戸が豊かに外光を採り込んでいる。外から、中で仏事が行われているのが見えるというのも、新鮮に感じられる。

一般に本堂は、シンプルな立方体の構造物として建設されている場合が多い。しかし、浄泉寺の本堂は、もともと民家なので、構造が複雑であり、それが構造



吹き抜け

的な面白みを生んでいる。本堂の中で、座る場所を少し変えるだけで、見えてくる構図・景色が大きく変化する。

また、その構造を生み出している資材が曲がりや歪みを持っていて、せいどうろうか、予想を裏切る姿を現すのだ。なか、不思議なのだ。自然の一部が、建築物の中に包み込まれているようだ。

ただ変わっているだけでなく、たとえば写真にあるように吹き抜け部分があるため、本堂特有の天井の高さも確保できている。昔は、農家の広いお宅で、和室をいくつか繋いで葬儀や法事を勤めていたが、それをイメージしてもらおうとよいかもしれない。ただ床は誠に見事な光沢の松材で仕上げられており、二〇畳あまりの清潔感あふれる礼拝スペースとなっている。

### リフォームの愉悅

民家から本堂という目的の異なる施設にするためには、リフォームが必要になる。床下の根回り材は腐敗しているため、再利用のために必要な処置もされているが、本堂として利用するために福井住職がリフォームを依頼されたのが、前橋工科大学の石川先生。

そのため、ただの古さだけでないモダンさも、そこかしこに感じられる。玄関部分は円形にくりぬかれており、もとも



とあった枯山水の庭には、あえて手を入れられている。また、壁の色が、内陣に近づく間仕切りを通過することによって、色々などところに仕掛けがあつて、アートとしての性格も感じられるのだ。

リフォームによって造られた本堂は、コスト面でも有利な面が見受けられる。ただ、それに留まらない魅力があるのもリフォームの面白みなのである。

## 古民家本堂の今

本堂の評判が、地域に広まりつつある。街からほんの少し山に入ったただけなのだが、街の喧騒からは完全に切り離された特別な空気に覆われた古民家本堂は、新しい歴史を紡ぎはじめている。古



子ども会のお寺体験



さまざまな催しで人びとが集う本堂

民家本堂のことを知った方が、ギャラリ  
ーや撮影などに利用されている。お習字  
やヨーガの教室（坊守さまがヨーガの先  
生）などとしても利用されている。

機能性だけに留まらない建物の持つ力  
が、人びとを魅了し、人びとが本堂へと  
足を運んでいる。残念なのは、私の筆力  
では、この本堂の本当の魅力を伝えきれ

ないことだ。ぜひ、足を運んでいただ  
き、経験していただきたい。

お寺という建築物が、訪ねたい、座り  
たい、そこでお経を読みたいと思わせる  
力を持つことの大切さを感じさせられた  
取材であった。